

令和7年 春の自然観察会「清水山の植生について」実施報告

主催：（一社）京都府山岳連盟

主管：自然保護委員会



将軍塚展望台にて、全体写真

【日時】 令和7年4月27日（日）

【観察場所】 京都市東山区〔円山公園～知恩院～東山山頂公園～清水山～清水寺〕

【集合】 円山公園しだれ桜前

【参加者】 連盟会員 33名 一般参加 5名 委員 14名 合計 52名

委員：服部・杉村・北川・西田・重川・増尾・山本・方山・岡田・
田口・光島・山田（ ）丸山

講師：服部委員（植物）・杉村委員（歴史） 進行係：丸山委員

【写真・記録担当】 増尾・山本・丸山

【天候】 快晴 微風 最高気温 23度

【行程】 9：00 円山公園しだれ桜前集合 開会挨拶・講師紹介

9：05～9：55 円山公園内植物・史跡解説

長楽館・竜馬像・赤穂浪士史跡・長楽寺・弁財天・安養寺
特定外来生物の解説



円山公園シダレザクラ前、集合



円山公園水路、特定外来植物の観察



長楽寺前



知恩院大梵鐘



法垂の窟



シイカシの樹林下で観察



清水山山頂（三等「清水山」242.2m）

9:55 知恩院大鐘楼 知恩院解説

10:00 登山口から植物観察

法垂の窟解説

学名にジャポニカがつく植物たち・東山の植生の特殊性などの解説 テングス病の解説

(シハウチク、キチジョウソウ、コスミレ、アリドオシ、サカキ、アオキ、シロバイ、ツブラジイ、
クサイチゴ、フユイチゴ、ピロードイチゴ、ムラサキシキブ、ナナミノキ、カクレミノ、ナナカマド、
イズセンリョウ、ウワミズザクラ、ツボスミレ、キクタニギク、エゴノキ、モッコク、ヒメコウゾ、
シャシャンボ、カジノキ)

11:00 将軍塚着 将軍塚解説

11:20 東山山頂展望台にて昼食休憩

12:00 集合写真撮影

12:20 山頂公園出発 明治期記念碑解説 植物観察

(マユミ、ヤマモモ、コバノミツバツツジ、イヌビワ、ホソバイヌビワ、ヤマウルシ、アクシバ、スノキ
コ克蘭、ジュズネノキ、タマミズキ、コバノガマズミ、シロダモ、リンボク、アオハダ、カナメモチ
モチツツジ)

13:05 清水山三角点

13:30 清閑寺山 清閑寺説明

14:00 清水寺裏門前 清水寺・歌の中山説明 閉会（解散）

例年 5 月中旬に実施していた春の自然観察会ですが、今年は連休前の 4 月に開催しました。好天に恵まれ、暑からず寒からずの快適な気候に加え、時期的に木の花も多くみられて観察には好都合でした。

実施場所の清水山は東山 36 峰の一つで、街中からも近く京都トレイルも山頂を通っています。今回は、京都トレイル道を利用して、知恩院から五条（一号線）までを歩き、植生の変化と思いがけない希少種の観察を行い、知恩院、清水寺、清閑寺などと連なる由緒ある寺社をめぐる地歴についても学習しました。講師のお二人の詳細な解説と、実際に植物に触れたり実験したりと参加者の興味をひくガイドで楽しく充実した観察会になりました。

【解説の概要】

杉村委員解説概要（当日配布資料より抜粋）

円山公園

円山公園（まるやまこうえん）は、京都市東山区に位置する、市内で最も歴史のある公園です。1886 年（明治 19 年）に開園し、面積は約 86,600 平方メートルに及びます。公園内は、東山を背景にした回遊式日本庭園が広がり、池泉や噴水、料亭、茶店などが点在しています。特に桜の名所として知られ、春には

多くの花見客で賑わいます。中でも「祇園の夜桜」として親しまれる枝垂桜は、公園の中央に位置し、夜間にはライトアップされ、その美しさは一見の価値があります。また、八坂神社や知恩院に隣接しており、周辺の歴史的建造物や美しい庭園とともに、四季折々の自然を楽しむことができます。公園内には、坂本龍馬と中岡慎太郎の銅像も設置されており、歴史的な見どころも豊富です。

長楽寺

京都市東山区にある「長楽寺」は、祇園の近くに位置する歴史ある寺院です。この寺は、平安時代初期に最澄によって創建されたと伝えられており、天台宗に属しています。祇園エリアの賑やかさから一歩離れた静かな場所にあり、周囲の自然と調和した美しい庭園が魅力です。長楽寺は特に、源平合戦や平家物語にゆかりのある場所として知られています。平清盛の娘である建礼門院がこの寺で出家したという歴史があり、そのため建礼門院ゆかりの寺院として多くの人々に親しまれています。また、秋には紅葉が美しく、観光や散策にぴったりの場所です。静寂の中で歴史と自然を感じながらゆっくりと過ごすことができる隠れ家的なスポットとして人気があります。

吉水弁財天

吉水弁財天（よしみずべんざいてん）は、京都市東山区の祇園にある小さな神社です。この神社は、弁財天（弁才天）を主祭神として祀り、芸能や学問、財運向上の神様として多くの人々に信仰されています。場所：祇園の中心地に位置し、観光地として有名な八坂神社や花見小路からも近いです。観光散策の際に立ち寄りやすいスポットです。

ご利益：弁財天は七福神の石柱で、音楽や芸術の神としても知られています。そのため、芸術や学問、財運を求める人々にとって特に縁のある場所とされています。

雰囲気：比較的小規模な神社ですが静かで落ち着いた雰囲気があり、喧騒を離れて心を静めるのに最適な場所です。

安養寺

安養寺（あんようじ）は、京都市東山区に位置する浄土宗の寺院で、法然上人（ほうねんしょうにん）にゆかりのある場所です。法然上人は浄土宗の開祖として知られ、念仏を唱えることを信仰の中心に据えた教えを広めました。安養寺は法然上人が長年にわたり教えを説いた場所のひとつであり、彼の足跡を感じることができる重要な歴史的な寺院です。また、安養寺は京都の祇園エリアにも近く、祇園は京都の伝統的な町並みや文化が色濃く残る場所として有名です。祇園は舞妓や芸妓が集う場所としても知られ、歴史的な景観とともに、観光名所としても多くの人々に親しまれています。法然上人の教えを受け継ぐ安養寺は、浄土宗の教義に基づいて仏教的な安らぎを提供しており、歴史的な価値も高い場所です。

知恩院の梵鐘

知恩院（ちおんいん）は京都市東山区に位置する浄土宗の総本山で、特にその梵鐘（ぼんしょう）は非常に有名です。「知恩院の鐘」として広く知られ、日本三大梵鐘の一つに数えられます。

※知恩院の梵鐘の特徴

・**大きさと重さ** 知恩院の梵鐘は高さ約 3.3 メートル、直径約 2.8 メートル、重さは 70 トン以上と、日本国内でも最大級の大鐘です。

鳴らし方 通常の梵鐘とは異なり多人数で鳴らします。約 17 人の僧侶が力を合わせ鐘を撞木（しゅもく）で突く姿は、特に大晦日の除夜の鐘の際に見られる伝統的な光景です。

歴史 知恩院の鐘は 1636 年（寛永 13 年）に鋳造されました。当時の技術の粋を集めて作られたもので、現在でも多くの人々に感銘を与えています。

音色 この鐘の音は深く、遠くまで響く低音が特徴です。その響きは「平安」と「安寧」を象徴するとされ、訪れる人々に心の安らぎを与えます。

除夜の鐘毎年 12 月 31 日の夜、大晦日の除夜の鐘が全国的に注目されます。知恩院では 108 つの煩

悩を表す 108 回の鐘が突かれ、その音色を聞きながら新年を迎えるのは、日本文化を象徴する光景の一つです。この壮大な梵鐘を間近で見て、その迫力と歴史の重みを感じてみてください！

法垂窟「ほうたるのいわや」:二祖対面

この善導大師（高祖）と法然上人（元祖）の夢中での出会いは二祖対面と呼ばれ、法然上人が善導大師から念仏往生の教えを継承し、それを弘めることを後押しされた証と受け止められています。 仏教の歴史では中国の隋や唐の時代あたりから、各宗派の教えが誰から誰へと伝承されて来たのかという系譜（血脈）に関心が向けられます。

青蓮院門跡

青蓮院門跡：将軍塚、東山は、京都市内に位置する美しい歴史的な場所です。

青蓮院門跡：禅宗寺院で東山の麓にあります。青蓮院は平安時代に創建され、門跡寺院（皇族や貴族が住職を務める寺）としても知られています。美しい庭園や、四季折々の景色が堪能できるスポットです。

将軍塚：東山の山頂にある場所で、京都市内を一望できる絶景スポットです。ここには平安時代の将軍が戦に出発する前に立ち寄ったとされる「将軍塚」があります。ここからの景色は特に夜景が美しいことで有名

東山地区:京都の風光明媚な地域で、多くの歴史的な寺院や神社、文化財が集まっています。清水寺や南禅寺なども近くにあり、観光名所として非常に人気があります。

清水寺

清水寺（きよみずでら）は、京都市東山区に位置する有名な仏教寺院で、世界遺産にも登録されています。この寺院は、平安時代に建立され、正式には「清水観音寺」と呼ばれていますが、清水寺の名前で広く知られています。建物自体は、木造の舞台が特徴的で、そこから京都市街を一望できる絶景が楽しめます。清水寺の歴史は非常に古く、創建は 778 年とされています。創建当初は、僧侶によって観音像が安置され、以降、さまざまな時代を経て、多くの人々に信仰されています。特に「清水の舞台から飛び降りる」という言葉があるように、この舞台の高さが象徴的で、昔はここから飛び降りることで無事に生還することができれば、願いがかなうと信じられていました。また、清水寺は紅葉の名所としても有名で、秋には多くの観光客が訪れます。その他にも、寺内にある「音羽の滝」や「地主神社」などの見所があり、訪れる人々に深い歴史的、文化的な印象を与えています。

服部委員解説概要 （当日配布資料より抜粋）

京都東山は、かつてはアカマツ林でした。明治以降風致保全のために伐採が禁止されてから、シイカシなどの広葉樹が繁茂し、アカマツの松枯れ被害などもあって、常緑広葉樹林帯へと林相が変化しています。高台寺山国有林では、昔のアカマツ林の復活を目指して、官民一体となった取り組みがなされています。

<観察のポイント>

- ①特定外来生物アゾラ・クリスタータ※1（アメリカオオアカウキクサ）の繁茂状況
- ②中国原産の移入種（寺の植栽）シホウチク※2、キチジョウソウ※3
- ③アオキ科の一属一種、アオキ※4 と園芸種のフィリアオキ
- ④japonica の学名を持つ植物たち 本日観察可能なアオキ、アセビ、サカキ、ヒサカキ、ヤブツバキ、ヤツデ、イズセンリョウ、スイカズラ、ムラサキシキブ、ネズミモチ、アカメガシワ、シラキ、マサキ、ビワ、エゴノキなど
例 スギ…ヒノキ科（Cupressaceae）スギ属（Cryptomeria）japonica
- ⑤アカネ科アリドオシ属の植物たち アリドオシ※5、オオアリドオシ※6、ジュズネノキ※7
刺の長さは？

- ⑥そっくりさん達 ハイノキ科のシロバイ※8 とバラ科のリンボク※9
- ⑦府下では希少種、モチノキ科の高木のナナミノキ※10 とタマミズキ※11
- ⑧サクラでも変わった花のウワミズザクラ※12
- ⑨菊谷の地名から名付けられた絶滅危惧種、キクタニギク※13
- ⑩キノコは残っているか ヒラタケとシイタケ
- ⑪どのくらいの違いか？ イヌビワとホソバイヌビワ※14
- ⑫木の病気 てんぐす病※15(魔女の箒) サクラや竹に多いが…
- ⑬サカキ科モッコク※16 はどこまで大きくなる？ 小高木～高木(3～12m)と図鑑にはあるが…
- ⑭めったに見ない木 カジノキ(クワ科) ※17
- ⑮きれいとは言えないが形が面白いコ克蘭※18 の花
- ⑯アクシバ※19 は花が面白い
- ⑰シイ林、スタジイカツブラジイ※20 か。樹冠の広がりを見る。

- ※1. アゾラ・クリスタータ…1990 年代あいがも農法のために移入したものが野生化。西日本中心に 20 都道府県に分布。水面を覆うように繁茂し水面下の水生生物に影響、水質の富栄養化。秋に赤く染まる。
- ※2. シハウチク…中国南部原産。明治 10 年ごろ高知県に移入。栽培が始まる。たけのこは 10 月。切り口は四角形。
- ※3. キチジョウソウ…キジカクシ科スズラン亜科の常緑多年草。関東以西に分布。花が咲くと縁起が良いとされる。
- ※4. アオキ…低木、北海道南部～沖縄の温帯に自生。葉に斑が入る園芸品種をファイリアオキという。
- ※5. アリドオシ…小低木、0.2～1m。関東～沖縄の暖温帯、亜熱帯に自生。沿海から低山の照葉樹林内にやや稀。葉は対生で基部に 1 対の刺があり、大小の葉が交互に付く傾向がある。棘は葉の 2 分の 1 より長い。
- ※6. オオアリドオシ…ニセジュズネノキ。棘は葉(3 cm 前後)の 2 分の 1 より短い。
- ※7. ジュズネノキ…低木、0.3～2m。近畿から九州の沿海、低山の湿った照葉樹林内に稀。オオアリドオシに似るが、葉が一回り大きく、棘はほとんどないかあっても短く 4mm 以下。
- ※8. シロバイ…小高木 2～8m。愛知から九州の暖温帯に自生。低地から山地の乾いた照葉樹林帯に稀。葉は縁が波打ち鋸歯は低い、葉柄がごく短い。枝や主脈上に毛がある。花は 5 月。
- ※9. リンボク…高木～小高木 5～15m、関東から沖縄の暖温帯に自生。幼木の葉は刺状の鋸歯がある。成木程全縁になり鋸歯のある葉と混じる。縁は波打つ。葉裏は葉脈の網目が目立つ。花は 9 月。
- ※10. ナナミノキ…高木～小高木 5～15m。東海から九州の暖温帯、沿海から低山にやや稀。乾いた照葉樹林やアカマツ林に多い。葉は長い楕円形で鋸歯があり、葉柄は時に赤味を帯びる。葉先は長く伸びて尖り、樹皮は灰白色で平滑。常緑樹。
- ※11. タマミズキ…高木 7～20m、東海から九州の暖温帯の低山にやや稀。照葉樹林に交じる。葉はサクラに似るが、鋸歯は目立たない、葉柄は長く赤味を帯びる。葉先は短く突き出る。実は赤で冬でもよく残り目立つ。落葉樹。
- ※12. ウワミズザクラ…高木 5～20m、北海道西部から九州の温帯に自生、落葉樹林内に普通、谷沿いや二次林に多い。ブラシ状の白い花をつける。花序の柄に葉が付く、同属のイヌザクラは葉が付かないので区別。
- ※13. キクタニギク…アワコガネギク。東北南部から九州にかけて。谷間の乾いた崖や山麓の土手に生える。食用にもなる。

- ※14. イヌビワ…小高木～低木 2～7m、関東から沖縄の暖温帯・亜熱帯に自生。沿海から低山の常緑樹林や林縁。葉はやや大型で傷つけると白い液を出す。イチジク型の 2cm ほどの実を常時つける。葉が細長い個体はホソバイヌビワという。イヌビワコバチにより受粉。
- ※15. てんぐす病…植物の茎や枝が密生して生える植物病害の一種。英名は魔女のほうきという。菌類やウイルスによって引き起こされる成長ホルモンの異常。サクラやタケに多い。
- ※16. モッコク…小高木～高木 3～12m、関東南部から沖縄の暖温帯・亜熱帯に自生。沿海の照葉樹林内にやや稀。西日本に多い。葉はヘラのような形、枝先に集まる。葉脈はほとんど見えない。葉柄は赤みを帯びる。
- ※17. カジノキ…小高木～高木 4～12m、関東から沖縄の暖温帯・亜熱帯に野生化。沖縄では自生。和紙などの原材料に栽培。葉は 3～5 裂、成木では不分裂葉が多い。葉の両面に毛が多い。実は可食。
- ※18. コ克蘭…ラン科クモキリソウ属、暖温帯の常緑樹林下に生える。6～7 月に黒紫の花をつける。福島県以南。
- ※19. アクシバ…低木 0.3～1m、北海道から九州の冷温帯、山地の林内、林縁にやや稀。葉は卵形で先は尖り、裏は白みが強い。枝は扁平で浅い稜がある。
- ※20. ツブラジイ…高木 7～20m、中部から九州の暖温帯に自生。低地から山地に林をつくる。スダジイに比べ内陸部に多い。葉は小型で枝は細く、実は小さく黒褐色。



クロバイの花



オオアリドオシ



ギンリョウソウ

以上